

## 創刊の辞

広島県立文書館長 熊田重邦

広島県立文書館は、昭和六十三年十月一日、「広島県情報プラザ」内に開館した。

この情報プラザは、文書館・図書館・産業技術交流センターからなる複合施設であつて、施設の中心に「出会い・ふれあい・交流の場」としてのコンベンションプラザを有しており、社会・文化・産業に関する情報の提供や展示等を通して、地域の教育・文化・産業等の発展に寄与することを特色としている。

こうした中であつて、当文書館は、歴史的・文化的情報を提供する場として、新しい試みを担つての船出となつた。

文書館の役割は文書等の収集・整理・保存をはじめ、その利用にあることは言うまでもないが、とりわけ当館では、文書等の整理・利用に関する調査研究や教育機能の充実に努めている。

十六年にわたる県史編さんを母体とした館蔵資料は、六万点を超える寄贈・寄託文書に加え、一七〇万コマに及ぶマイクロフィルムやそれを基とした複製資料及び三万四千冊の行政文書等に支えられている。

開館に当たつて、これらの一部を目録として発刊するとともに、利用者の資料の活用に役立てるため、効果的な調査研究活動を心がけている。

## 創刊の辞

この度創刊する「紀要」は、資料の目録化や特別展の準備、あるいは現在取り組んでいる「広島県移住史」の編集などの業務を進めていく中で、館員それぞれが手掛けた資料研究の成果の一端を発表したものである

この成果が、多少なりとも利用者の皆さんの研究の一助になれば幸いである。

平成元年三月